

# 視察研修報告書

1	委員会名
	産業建設常任委員会
2	実施名称（テーマ）
	町内直営施設の今後の運営を検討するにあたり県外の施設状況の実情を視る
3	実施期日
	令和7年7月31日～8月1日
4	実施場所
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美ヶ原高原美術館</li> <li>・蓼科高原バラクライングリッシュガーデン</li> <li>・別所温泉</li> <li>・上田 道と川の駅 おとぎの里</li> </ul>
5	実施目的
	<p>ビエンナーレ作品の常設展示          中之条ガーデンズの今後の運営について          温泉地の賑わい 観光誘致の取り組み          道の駅の現状と今後の役割について</p>
6	参加者の氏名
	<p>委員長 山田みどり          副委員長 福田 公雄          委員 関 常明          委員 唐沢 清治          委員 劔持 秀喜</p>
7	その他

## 視察研修等委員別報告書

1	<b>作成者氏名</b>
	山田みどり
2	<b>視察研修の実施名称（テーマ）</b>
	直営施設の今後について持続可能な施設のあり方とは
3	<b>実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）</b>
	<p>町内の直営施設を維持し持続可能な施設とするために必要なことは目的や役割を明確にする必要がある。現状の経済的収支の赤字をどのように考えるか</p> <p>今回の視察先である蓼科バラクライングリッシュガーデンの代表である山田裕人氏との懇談では地域との連携、とりわけ子どもたちや地域ボランティアの協力が必要であること。また地域の特徴を活かしその土地に根付いた文化を取り入れるウェルビーイング（wellbeing）の考えをもとに持続可能な施設として30年かけて地域とともに協力し運営を行ってきたと話す。この観点が必要であると考え。花だけの集客を主目的としての運営には限界がある。</p> <p>山田氏からは中之条ガーデンズの持つ魅力をもっと活かすような助言をいただいた。新潟県見附市が直営するイングリッシュガーデンの監修をしているが市民ボランティア団体が立ち上がり、庭園管理を行っていることや隣接してホテルを作るなど産業として地域に還元できている事例の紹介があった。自治体が運営しているという点で調査研究したいところである。また観光シーズンでない冬の時期でも訪れる目的を作ること、また園内での食の提供にも力を入れていること。視察中も平日だったが何組かのお客様が高い価格にも関わらずアフタヌーンティーを注文されていた。このことから目的をこちら側がうまく設定することで人の行動様式を変えることができるのではないかと考える。</p> <p>蓼科バラクライングリッシュガーデンは中之条ガーデンズと比べ園内はコンパクトな作りでお庭のような印象である。イギリスから来ている庭師が作業をしていて英国王立園芸協会パートナーガーデンに6年間認定されていることからこのガーデンのコンセプトが造られていると考える。イギリス人講師を招いてのガーデニングスクールやセミナーが年間通して行っている。また子どもたちに庭作りなどのコンペティションを行うなど学習としての取り組みも興味深いと感じた。</p> <p>当町で行っている取り組みにさらに地域の特性を活かし大規模な施設を集約化してコンセプトを明確にすることで持続的な施設へと次世代へ繋ぐことが可能でないかと考える。ある時代には大規模な構造物を建て、町の産業としての期待や象徴的な意味合いもあったと思うが変容し続ける時代の中では、そのあり方や目的を考える時にあると考える。当委員会としては、今後もこの課題について継続的に研究を進め、町の未来に資する施設運営の在り方を模索していきたい。</p>
4	<b>その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）</b>
	新潟県見附市の直営事業においての実情など

## 視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
福田公雄
2 視察研修の実施名称（テーマ）
1. 美ヶ原高原美術館の運営について 2. 蓼科高原バラクライングリッシュガーデンの運営について 3. 別所温泉での取り組みについて 4. 上田 道と川の駅 おとぎの里の運営について
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等）
1. 美ヶ原高原美術館の運営について <p>美ヶ原高原美術館は、美ヶ原高原の自然を生かした施設で、野外彫刻だけではなくロケーションも楽しむ事に特徴がある。QR コードを使ったアート作品の解説が聞けるが、当町の観光施設でも取り入れたいところである。ビエンナーレの作品を美ヶ原のように常設展示する場合には、維持管理方法、また作品は制作者の所有であるため、契約方法にも配慮が必要と思われる。</p>
2. 蓼科高原バラクライングリッシュガーデンの運営について <p>山田裕人代表から案内・説明をいただいた。イングリッシュガーデンは1万㎡の敷地に5千種類の植物があり、四季折々に花を通じて庭園が楽しめる。整備には20年かかっており、中之条ガーデンズも同程度の期間を一つのスパンと考えるべきではないか。山田代表から、順調な成長、財政の負担軽減のための課題として、複数のプロデューサー・デザイナーがいる事から起きる弊害への懸念と、コンセプトの決定者となるデザイナーの必要性を指摘された。また、ケイ山田氏と山田代表が長年携わる「みつけイングリッシュガーデン」の例では、ボランティアの重要性を感じられた。その他、指定管理については、その後の経営が順調ではない事例が多いとの事だったが、山田代表は「公設・民営」が良いとも話されており、研究の余地があると感じた。</p>
3. 別所温泉での取り組みについて <p>別所温泉は、静かな情緒のある温泉街で、由緒ある古刹や文化財が徒歩で散策できる場所に点在している。名所をつなぐ石畳の道と、住民主体で地元の歴史を踏まえ製作された案内板が温泉街の情緒、風情に役立っていると思われる。</p>
4. 上田 道と川の駅 おとぎの里の運営について <p>株式会社おとぎの里が運営。市民主体の「特徴ある持続可能な豊かな地域社会の創造」を理念に掲げている。ヘリポート等もあり、道の駅の機能の他、住民生活にも役立っている。</p>
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イングリッシュガーデンのケイ山田氏と山田代表は、松本市から大規模な庭園建設のアドバイザーを依頼されている。今後もある程度の関係は保ち、アドバイスや松本での取り組みを伺いたい</li> <li>・共通するテーマとして、官民協働がある。この点について、他の事例・施設も見ながら、研究を深めるべきだと考える。</li> </ul>

## 視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名			
	劔持秀喜			
2	視察研修の実施名称（テーマ）			
	1.長野県 美ヶ原高原美術館	3.長野県 別所温泉		
	2.長野県 蓼科バラクライングリッシュガーデン	4.長野県 上田道と川の駅		
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）			
	<p style="text-align: center;"><u>私の今回の視察研修の主目的はガーデンズの収支改善への施策についてです。</u></p> <p><u>1.長野県 美ヶ原高原美術館</u></p> <p>標高 2,000mの美ヶ原高原に 1981 年開館、野外展示 250 点常設展示。ショッピングモール、テラス、レストランは道の駅美ヶ原高原となっている。私は数年前ここを個人的に訪れ、ガーデンズの収支改善する一つの方法として、規模は違えどビエンナーレとガーデンズを融合させてはどうかと感じ、今回委員会視察として訪問しました。改めて視察し、課題はビエンナーレもガーデンズもディレクターや先生方主導でなく、町が主体となっていくことがガーデンズ再スタートと感じた。</p> <p><u>2.長野県 蓼科バラクライングリッシュガーデン(バラクラ)</u></p> <p>当施設創設者は、日本におけるイングリッシュガーデンの第一人者であるケイ山田氏、その弟でバラクラ代表の山田裕人氏に予定より 2 時間超過するほど熱心に案内や説明をしていただきました。</p> <p>1 年草や多年草、花や木や草の組み合わせ、いかに花の無い時期に見せるものがあるか等々園内隅々まで案内・説明いただきました。またガーデンズについても、どう誰がまとめていくのか、町民にいかに親しまれるかなど課題を指摘いただきました。またレストランについてもその施設の価値観を高め、らしさを表現するのに重要であると再認識し、改めて改善の必要性を強く感じた。バラクラはバラ園ではありません、シーズンを通して楽しめる癒しと安らぎの英国庭園です、と。</p> <p><u>3.長野県 別所温泉</u></p> <p>歴史がある、泉質に優れ、湯量が豊富、共同浴場も 3 つ、石畳みの温泉街。2 度目の訪問ですが、四万・沢渡の中間程度の規模であり、温故知新の温泉地情緒の残る雰囲気の良い場所である。</p> <p><u>4.長野県 上田道と川の駅</u></p> <p>防災拠点と位置付けられ備蓄倉庫やヘリポートがあり、道の駅と親水空間である川の駅が一体となった全国で初めて平成 10 年に登録。何しろ広い。他の道の駅とは全く機能が異なる施設に思う。</p>			
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）			
	<p>ガーデンズの収支改善には運営を見直し、ビエンナーレの集客力を活用する。それには専門家委託でなく、ガーデンズの施設活用やビエンナーレの作品・作家選定から町が主体となっていくことが必要であると感じている。委員会としても具体的に改善施策を提案していくべきに思う。</p>			

## 視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	唐沢清治
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	① 美ヶ原高原美術館視察 ② イングリッシュガーデン視察研修 ③ 別所温泉視察
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	① 道の駅と併設されており、高原の山の上、屋外に 250 点ほど国内外の作家による現代アートが展示されている。高原の草木、眺望に溶け込んでいて一体感がある。一度開設すれば経費等はいかからないと思った。 ② ・出迎への対応の良さを感じた。 ・施設がコンパクトに纏っていて、木々や多年草による自然栽培なのでコストが掛からない。 ・2,500 種の草木を知り、デザイン力により一本一本の草木が自由に生育し、生かされ、居場所を持っている。 ・一年中楽しめる施設で、いくつもの空間に別れていて、一つ一つの空間にテーマがあり、一週間でその表情が移り変わり飽きさせないという。 ・英国王立園芸協会から名園認定を受けたり交流を深めている。 ・庭園だけでなく、アフタヌーンティ、菓子、料理等英国文化を取り入れた一貫性を持った経営をしている、また、ガーデンスクールを年間開催したり、造園無料相談、ボランティア募集など人との繋がりを大切にしている。 ③ 北向観音という目玉がある。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	中之条ガーデンズとの比較。ガーデンズは面積が広い。頭がいくつもある。経費がかかる。お客様が花桃とバラに片寄っている。他の時期、特に夏休みにお客様が呼べるように工夫する。例えば夏の大きな花と大きな蝶の協演。ボランティアによつての試み。

## 視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	関 常明
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	<p>産業建設常任委員会長野県方面視察研修</p> <p>美ヶ原公園美術館・蓼科高原バラクライングリッシュガーデン・別所温泉・上田道の駅おとぎの里 各施設視察・イングリッシュガーデンは講演と意見交換</p>
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>イングリッシュガーデンでは長時間講演をしていただき歴史、考え方、将来について話していた。中之条ガーデンズの今後と比較はできないがテーマがしっかり出来上がっている点、ボランティア活動の参加者の考えかた職員の仕事の仕方など参考にすべき点が多くあった。</p> <p>公園の作り方は年月をかけて計画的に作業を進めていくことの大切さを実感した 完成した形をイメージしながら数十年の単位で町として施設を維持できるか 課題でもある予算の問題黒字経営にいかに近づけられるか 当初言われていた様に観光の施設のハブになるのだから予算の問題はある程度容認すべきとの考えかたであったが町民の理解を得られるか</p> <p>上田の道の駅は施設見学だけだったが今後中之条の道の駅も課題が出てくると思う。道の駅も大型化が進んでいたり特徴のあるところが伸びたり低迷している場所もあり二極化している印象もある。当初の考えかたは良いところがあったとしても時代と共に変化も受け止め改善の必要性がある時期が来るかも知れない</p> <p>美ヶ原公園美術館は現代彫刻を展示している大規模施設でありビエンナーレとは比べるものではないが研修を重ねていく必要があると感じた。</p> <p>中之条の両方の施設も集客、予算の問題、費用対効果の検証を重ねていく必要がある。簡単に指定管理の活用の方ではなく町のシンボルの施設としての取り組みをしていく必要性を感じた。</p>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	<p>各施設とも町としてのリーダーシップ必要</p> <p>町民の理解、協力がえられるか説明ができるよう取り組む</p>